

東海地震など 大規模地震に備えて



安全安心課 ☎66・1156

東海地震が 起こるのはなぜ

地球の表面は「プレート」と呼ばれる岩盤で覆われており、特に日本列島周辺では何枚ものプレートが入り組んでいます。太平洋岸では、このプレートの潜り込みによる地震が一定の周期で繰り返し起こっています。

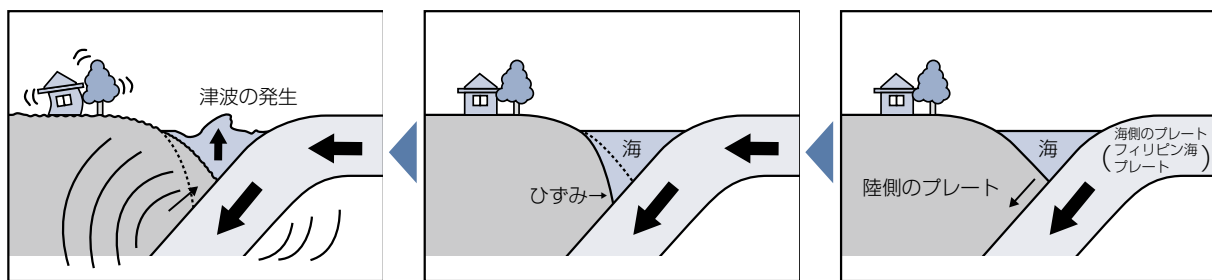
特に、フィリピン海プレートが潜り込む東海から四国にかけての海域では、100年〜150年の周期

で、ほぼ同じ場所に同じ規模の地震が起こっています。

過去の地震の発生状況を見ると、駿河湾から御前崎沖では、1854年の安政東海地震以来150年にわたって大地震が無く、地震のエネルギーが蓄積され、潜り込みによるプレートのひずみは極限に達していると考えられています。

このため、東海地震は明日起きてもおかしくないとされています。

東海地震発生メカニズム



ひずみが限界を超えたとき、陸側のプレートが跳ね上がり、地震（または津波）が発生します。

潜り込みによって、ひずみが極限へ。現在、この状態であると考えられています。

海側のプレートが潜り込んでいくとき、陸側のプレートの先端が引きずり込まれていきます。

皆さんに 少しでも早く情報を

地震学によると、東海地震のようなプレートによる大きな地震は「プレスリップ」と呼ばれる地震の前兆的なすべり現象から始まるとされています。すなわち、プレスリップをいち早く発見できれば、地震発生が予測できることとなります。このプレスリップを発見しようと、東海地方を中心に、地殻の伸び縮みを計る「ひずみ計」が設置されています。

今回、より早く皆さんに地震発生の可能性が高まったことをお知らせできるように、「ひずみ計」の観測結果を基準とした、地震情報の発表方法に変わります。

東海地震に係る 新しい情報発表

地震発生の危険度（ひずみ計の異常）に応じて、気象庁から情報が発表されます。なお、この発表方法は、平成16年1月5日から行われる予定ですので、それまでは現在の情報発表となります。次ページの「情報発表の新旧対照表」を参照してください。

※この予定日の変更された場合は改めて広報でお知らせします。